第 49 回全国大学保健管理研究集会
―当番校としての開催―

山口大学保健管理センター
奥屋　茂

要旨

この度中国四国地方部会の当番校として，全国大学保健管理研究集会を山口大学が担当した。多くの方々の協力を得ながらおよそ１年半にわたり準備を行い，プレ企画を含め約２日半の全国規模の大会を企画・運営するという貴重な経験を積むことができたことを報告する。

キーワード

保健管理，教育，支援，維新

1 はじめに

平成 23 年 11 月 9 日(水)･10 日(木)の両日，海峡メッセ下関を会場に，第 49 回全国大学保健管理研究集会を，山口大学保健管理センターが学生支援課の協力を得て開催した。本研究集会会長は丸本山口大学長に，副会長は吉田山口大学副学長に就任していただき，もう一人の副会長でかつ実質的責任者を平野保健管理センター所長が担当した。山口が明治維新発祥の地であることから，研究集会テーマに“維新”の２文字を盛り込みたいと，今回の共通テーマを「保健管理維新―教育的視点から今後を見据えて―」とした。その趣旨は，教育的視点から保健管理業務を見直し改革していくにはどのようにしたら良いかということであった。

なお，平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に関連して，平成 23 年 3 月末の本研究集会第１回運営委員会の際に，一般演題での特別区分設置や，シンポジウム形式での特別セッション追加というプログラムの修正を行い，最終的には，153 題の一般演題と 692 名の参加者を得た全国大会運営となった。

本稿では，当番校として開催した本大会に関して，前日のプレ企画と２日間の研究集会の報告を行う。

2 研究集会前日プレ企画：市民公開講演

研究集会前日夕方，梅原 徹京都大学名誉教授をお招きし，「教育の原風景―自らが範を示し，信ずる道を生きた教育者吉田松陰―」という“維新”に関連する特別講演を，海峡メッセ下関国際貿易ビル 10 階国際会議場で開催した。吉田松陰の生涯・生き様を，彼を師と仰いだ多くの塾生のことも含めて大変熱心にお話しいただいた 90 分間であった。教師が模範を示し，自らが信じる生き様を弟子の前にさらけ出してみせる，討論中心の極めて辛抱強く息の長い松陰の教育法に関する内容で，改めて教育の重要性を認識させられた。

また同会場で特別講演に先立って，平野所長

による「体内時計と光環境：健康の維持と増進におけるその重要性について」というタイトルでの，ヒトが持つ体内時計の不思議さ，その体内時計に及ぼす光の影響や，実例をあげての光治療に関する教育講演が行われた。

これら講演はプレ企画「市民公開講演」という形で行われ，一般市民を含めて約 70 名の参加者が熱心に聴講した。

3 研究集会第１日目

3.1 開会式

本研究集会のメイン会場は，海峡メッセ下関アリーナ棟 4 階のイベントホールであった。平野所長の開会の辞を皮切りに，丸本山口大学長，川村 孝全国大学保健管理協会理事の挨拶で開会式が行われた。

3.2 特別講演

開会式に引き続いて午前中に，丸本山口大学長による「高等教育の未来―人間力を磨く共育の場としての大学―」という特別講演が開催された。総合的な人間力とバイタリティーあふれる人材を育成できる，教員と学生が共に育つ“共育”できる大学を目標にしていると話されていた。課題探求力・解決力を身につけるための山口大学独自の取り組みである「おもしろプロジェクト」を例に，将来のリーダーとなる人材育成も行っていると熱く語られた。

3.3 シンポジウム１

第１日目午後からは，「健康教育維新～キャンパスから社会へ繋ぐ－在学中に獲得すべき医学知識と確立すべき生活習慣－」というテーマのシンポジウムが行われた。それぞれの立場・視点から，4 名のシンポジストが演台に立った。

1) 北村メンタルヘルス研究所 北村俊則所長が，「ライフステージからみたメンタルヘルス」について，社会人として身につけるべき心理的能力をパーソナリティ理論から講演された。

2) 九州大学健康科学センター 上園慶子教授が，「代謝症候群とその予防」というタイトルで，その疾患概念，診断基準，大学生への対策・生活指導の取り組み等を話された。

3) 東京大学保健・健康推進本部 石川 隆先生が，「大学における感染症対策と危機管理」に関して，これまで経験された麻疹・百日咳・インフルエンザを例に，今後の感染症対策・予防法を語られた。

4) 千葉大学総合安全衛生管理機構 潤間励子先生により，「がん危険因子とがん予防―大学における「がん教育」と「がん予防」―」という演題で，知識教育，禁煙・適正飲酒，ワクチン，癌検診等の話があった。

いずれの話題も，卒業後社会で健康な生活を送るために在学中に学ぶべき重要なポイントであった。

3.4 教育講演１

引き続き共育講演１では，「留学生の健康管理支援について」というタイトルで，次々回全

国集会当番校に決まった岐阜大学保健管理センターの山本眞由美教授が話された。留学生に必要な健康教育の課題として，健康診断の意義，生活習慣や食文化の相違を踏まえた健康管理，日本の医療制度などが取り上げられた。また，卒業後の不安に対するメンタルヘルスや，わが国の留学生受入体制の問題点等もわかりやすく話された。今後の留学生対策を行っていく上で，とても貴重な教育講演であった。

3.5 一般研究発表・ポスターディスカッション

夕方 4 時 20 分からの時間帯は，会場を海峡メッセ下関アリーナ棟 1 階展示見本市会場に移して，ポスター展示による一般研究発表が行われた。いずれのセッションも多くの参加者がポスターを囲んで熱心に議論していた。予定時間を過ぎるセッションも数多くあり，特に東日本大震災をテーマに設定された特別区分のセッションでは，当初予定されていた時間を大幅に超過して，ディスカッション・フリートークが続いていた。

4 研究集会第２日目

4.1 シンポジウム２

第２日目朝からは，メイン会場のイベントホールにおいて，「健康支援維新～キャンパスライフにおける学生と職員の支援を問う」というテーマで，シンポジウム２が行われた。本シンポジウムも以下の 4 名のシンポジストが順番に演台に上がった。

1) 信州大学衛生学公衆衛生学講座 塚原照臣先生が，「大学における復職・復学をめぐる問題とその支援」について，特に心の健康問題への取り組みに関して話題提供された。

2) 九州大学健康科学センター 山本和彦教授が，「大学生の薬物乱用の現状と対策」に関して，特に大麻の話題を中心に，予防教育とドラッグフリー社会を維持していくことの重要性を語られた。

3) 長岡京駅前メンタルクリニック 中村道彦先生が「大学生の自殺予防」というタイトルで，今後も増加する可能性がある大学生の自殺に関して，策定された大学生の自殺対策ガイドライン 2010 をもとに話された。

4) 心の発達研究所 太田昌孝理事長が，「大学における発達障害支援」という演題で，大学世代の発達障害の不適応の様相と合併する精神障害，早期発見・治療，一貫した支援体制の重要性等を話された。

大学を構成する学生と教員，事務職員を支援する方法論等を学ぶ良いきっかけとなった。

4.2 関連企画

昼食時間帯の関連企画として，山口大学時間学研究所 明石 真教授による「現代人と概日時計～健康を脅かす慢性的な時差ぼけ～」というランチョンセミナーが国際会議場で行われた。もう一つの関連企画として，奈良女子大学保健管理センター 高橋裕子教授が，大学禁煙化プロジェクト研究会をメイン会場で実施された。

4.3 教育講演２

午後からは，山口大学経済学部 塚田広人教授による，「日本経済の動向予測と，学生と職員がとるべき対応の方向性について」というタイトルでの教育講演が行われた。厳しい日本経済において，不況，就職難，税金，年金等社会保障の問題の今後の展開の見通しについて述べられ，学生，職員がそれにどう対応していったらよいのかを考えさせられる貴重な講演であった。

4.4 東日本大震災特別セッション

東日本大震災は，その規模と被害者の多さ，また原子力発電所事故という深刻な二次災害を誘発した点で，現在も多くの課題を残している。本特別セッションで，東北大学保健管理センター長の飛田 渉先生，福島大学保健管理センター長の渡辺 厚先生，石巻専修大学の千葉友子保健師からそれぞれ状況報告や対応，支援活動等が提示された。被害地の大学に何が起き，何が失われ，どの様に対応したのか等が実際の映像とともに報告され，これらを教訓に今後の対策に関して提言があった。

5 閉会式

特別セッションに引き続き，閉会式が行われた。まず，一般演題の中から選出された優秀演題 13 題の発表・表彰が行われた。引き続き，次回当番校の神戸大学保管管理センター 馬場久光所長が挨拶され，最後に平野所長が閉会の辞を述べ，全日程を終了した。

6 おわりに

本大会の企画・運営に関しては，社団法人全国保健管理協会の助言と指導を仰ぎ，中国四国地方部会の先生方とも協議しながら，平成 22 年春より準備を行ってきた。さらに，前回当番校の千葉大学や，丸本学長，吉田副学長，藤井学生支援部長のサポートも受けながら，学生支援課ならびに保健管理センタースタッフが，学会運営業者とも協力して，無事運営することができた。当初は雨も心配された天候も，我々の祈りが通じたのか何とかもってくれた。

この度の大会を当番校として開催することによって，中国四国地区以外の大学の保健管理センターの先生方との距離感も近くなり，全国規模の大会を企画・運営するという貴重な経験も積むことができ，大変有意義であった。

謝辞

今回の研究集会の企画・運営に当たり，丸本卓也学長，吉田一成副学長，藤井純朗学生支援部長，杉山 宏学生支援課長，伊藤伸司学生支援課副課長，伊東明美支援企画係長をはじめ，ご協力いただいた関係各位に改めてお礼を申し上げます。